

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

第6号 2011 年 8 月 30 日発行

● ドナルド・キーン博士 特別寄稿	1	● 学部・大学院トピックス	6
● 大学の震災対応	2	● キャンパス情報 喜吉造園	6
● 名誉学長に竹内一夫先生と長澤俊彦先生	3	● 杏林大学地域交流活動	7
● 総合大学の特長を活かして 学部間連携科目	4	● クラブ紹介 剣道部、杏園祭実行委員会	8
● 学園創立 50 周年へ 杏林クロニクル	4	● 連載・金田一教授の研究室から	8
● 卒業生リレー 医師で落語家 立川らく朝さん	5	● 連載・健康ひとくちメモ「夏バテ」	8
● 在学生リレー インドで弟子入り？ 伊藤隆仁さん	5	● 連載・数字で見る杏林大学	8
● 図書館サポーター育成へ	5		

新年度を控え諸行事の準備に追われていた 2011 年 3 月 11 日（金）、東日本大震災が発生、死者・行方不明者 2 万人余（8 月現在）の甚大な被害をもたらしました。

本学においては学生・教職員は幸い全員無事でしたが、およそ 100 人の学生・教職員の実家が被災し、親族や関係者を亡くされた方もあります。

今度の地震および津波の被害は大変大きく、しかも福島第一原子力発電所の損壊に伴い

放射性物質が広く飛散し、日本の社会・経済・産業全般に大きな影響を与えています。日本列島は地震の活動期に入ったともいわれ、首都圏直下型地震も懸念されています。

本号では今回の大震災をどのように受け止め、今後の万一の場合に大学としてどう備えるかを考えるために、本学名誉博士であるドナルド・キーン氏から特別寄稿を頂戴し、東日本大震災に対して本学はどのような対応を取ったのかについて特集を組みました。

●ドナルド・キーン博士からの特別寄稿について

日本の文化研究の第一人者のドナルド・キーン博士が、本年 4 月、日本に帰化・永住する決意を表明されその手続きをとられました。それは福島第一原発の水素爆発により大量の放射性物質が拡散し、そのために日本を脱出し、入国を取り止める外国人が相次いださなかのことで

あっただけに、日本人に大きな感銘を与えました。

キーン博士は 2007 年 12 月に本学名誉博士になりました。その御縁もあり、松田博青理事長がキーン博士にメッセージをお願いしたところ快くお引き受けくださいました。次いでキーン博士の直弟子であるピーター・

マックミラン外国語学部客員教授に仲介の労をとっていただき、編集長が直接ご寄稿依頼文をお送りしたところ、日本への限りない愛情と日本の復興を信じる熱い思いをこめた一文を頂戴いたしました。なお、玉稿は英語ではなく、日本語で頂戴しました。

（大学新聞編集部）

苦しみの中にこそ希望がある

日本の美しさは遥か昔から、日本の詩人のみならず、遠い国からこの国を訪れ、幾多の麗景に魅了された人々にも称賛されて来た。だが、この美しさには、もう一つの顔がある。誰からも愛されて来た富士山でさえ、いつの日か噴火して、田園の土地に溶岩を放ち、今年の津波のように人々や家々を流すかも知れないのである。恐ろしい破壊の爪痕は、もう一つの火山、浅間山の噴火で出来た、鬼の押し出しでも見ることが出来る。

地震は日本の景観を何度となく破壊して来たし、多くの津波もあつたに違いない。ところが日本文学の中には、それら災害の記述が驚く程、少ないのである。

災害の記述で、もっとも知られているのが、僧侶であった鴨長明の方丈記であろう。長明は仏教徒としての信念を通じて強大な地震を語っている。いつかは起こる災厄を思えば、この世をあてにするわけには行かないと。

長明を別にすれば、過去の日本のほとんどの歌人は、災害は詩に相応しいものではないと考えた。おそらく、寒い冬の後には、再生の春の訪れを詠うことが、より重要と見なされたのであろう。木々の葉が枯れて落ちるのは寂しいものだ。しかし、木が死んだわけではない。枝には新芽が顔を出し、やがては樹木も美しさを取り戻す。

厳しい冬の寒さにこごえる中で、より良い季節が訪れると思っても、大した慰めにはならないが、それは絶対、確実な事であるし、苦しみの中にこそ希望がある。

東北にも春は訪れる。亡くなった人々への想いや、不毛の地と変わり果てた大地への悲嘆が消えるわけではない。しかし、春は希望をたずさえて来る。そして、それこそは季節がもたらす最も尊い賜物なのだ。

2011 年 7 月 27 日

ドナルド・キーン



ドナルド・ローレンス・キーン博士

Donald Lawrence Keene. 1922 年ニューヨーク生まれ。コロンビア大学、同大学院、ケンブリッジ大学を経て、1953 年に京都大学大学院に留学。コロンビア大学名誉教授、アメリカ・アカデミー会員、日本学士院客員。1962 年 菊池寛賞、1985 年 読売文学賞、日本文学大賞はじめ、数々の賞を受賞。勲三等旭日中綬章（1975 年）、勲二

等旭日重光章（1993 年）、文化功労者（2002 年）、文化勲章（2008 年）を受章。

著作は、『日本文学の歴史』全 18 巻（1994 ～ 97 年）、『足利義政と銀閣寺』（2008 年）、『日本人の戦争』（2009 年）など 40 点を越える。

本年 4 月まで 56 年間にわたり、コロンビア大学で日本文学を研究し指導される。



ドナルド・キーン博士
杏林大学名誉博士号授与式・記念講演

左写真は杏林大学名誉博士号授与式・記念講演で「日本文学と私」をレクチャーされるドナルド・キーン博士。八王子キャンパスの大教室では教員及び学生たちが熱心に聞き入った。

杏林大学は、こよなく日本を愛し、世界各国の日本文化理解の促進に大きく貢献されたキーン博士の功績を讃え、2007 年 12 月 4 日、名誉博士号をお贈りした。



紹介：ピーター・マックミラン
外国語学部客員教授

アイランド生まれ。アイランド国立大学助手、メリーランド大学講師等を経て 1988 年より杏林大学外国語学部で教える。プリンストン大学、コロンビア大学、オックスフォード大学の客員研究員。専門は文学、詩、美学、翻訳。

コロンビア大学でドナルド・キーン博士に日本文学を学び翻訳の指導を受ける。2008 年コロンビア大学出版会より “One Hundred Poets, One Poem Each”(英訳・小倉百人一首) を出版。キーン博士はこの訳書に序文を寄せたが、“This is by far the best translation to date.” と高く評価された。

マックミラン客員教授によると、キーン博士はこのたびの東日本大震災には大変心を痛められ、自分が何を語ることが出来るか悩まれましたが、これからの日本を背負う若者に少しでもお手伝いになればとご執筆を引き受けられたそうです。

大学の震災対応

震災直後から現在に至るまで、大学がとった対応の記録と現体制

学生、家族の安否を確認

東日本大震災が発生した当日、大学は春休み期間でした。帰省中の学生も多く、被災地出身の学生の安否確認にかなりの時間を要しました。

震災後は通話規制や停電による基地局のダウンなどにより通信手段が困難な地

八王子キャンパスでは…

岩手県、宮城県、福島県出身の102 人の学生（総合政策学部 29 人、外国語学部 28 人、保健学部 45 人）に、本人が大学に届け出ている携帯電話や実家の連絡先に電話をするとともに、学生支援システム「ユニバーサルパスポート（通称:ユニパ）」（注 1）で安否の確認を行いました。

ユニパでの安否確認の方法は、大学からユニパの掲示板にメッセージ（注 2）を掲載し、それを受けた学生が「学部」・「学年」・「氏名」と「安否情報等」を大学に返信するというものです。

さらに 3 月 14 日（月）からは総合政策学部、外国語学部、保健学部の全学生約 3,600 人に対して、安否確認やご家族（実家）の被害状況をユニパや大学ホームページを通じて行いました。

また、入学センターでは、それまでに入学手続きを済ませていた東北・関東あわせて 7 県の入学予定者 101 人に対して、3 月 20 日（日）から月末までの間、安否の確認と実家の被災状況、4 月から入学可能かどうか等について電話で聞き取りを

域もありました。

本学でユニバーサルパスポートや電話を使って、本格的に連絡がとれるようになったのは、震災直後の混乱が幾分収まった翌 3 月 12 日（土）からでした。

スタッフあげて学生と連絡をとる

行いました。

留学生に関しては一時、母国に戻るなどして連絡がとれない状況でしたが、4 月にはほとんどの学生が日本に戻り、通常どおり新学期のスタートを切りました。

(注 1) **ユニバーサルパスポート**

通称「ユニパ」は大学と学生を結ぶコミュニケーションツール。履修登録、掲示情報確認、休講情報確認、シラバス検索、取得済科目確認、授業時間割確認、授業用資料ダウンロード、課題提出、求人検索などのサービスがあり、携帯電話からも確認できる。

以下はユニパで学生に送信したメールの内容。

(注 2)

❶ 東北震災に伴う安否確認について

差出人
教務課

本文

既に周知のとおり東北震災により、本学では学生本人及びご家族（実家）の被害状況や安否確認について、お問い合わせします。通信手段が困難であろうかと思いますが、可能な限り、下記のメールアドレスまたは電話等でご一報をお願いいたします。
学部・学年・氏名と安否情報等をお寄せください。

総合政策学部・教務課／●●●●●@ks.kyorin-u.ac.jp
外国語学部・教務課／●●●●●@ks.kyorin-u.ac.jp
杏林大学・教務課直通 042-691-8726

※行き違いで、回答済みの場合は、ご容赦下さい。
※本メールでの直接の返信はできません。必ず上記アドレス等にご連絡願います。

三鷹キャンパスでは… 帰宅困難者対応と被災状況把握を急ぐ

保健学部看護学科では、発災時 3 年生約 100 人が病院実習中でした。当日は都内の大停電を考慮して、帰宅した数人を除いて教室などで一夜を過ごしました。担当事務部署ではその夜から翌 12 日未明にかけて、東北 4 県と北海道および関東 3 県の学生約 50 人にユニパで連絡を取るよう呼びかけ、ほぼ 1 週間で被災地の学生の無事を確認しました。

ユニパを導入していない医学部では、本格的には週明けの 3 月 14 日

から岩手、宮城、福島 3 県出身の学生 21 人に電話等で安否確認を行うとともに、大学ホームページを通じて全医学部生に安否の連絡を呼びかけました。

医学部付属看護専門学校ではクラス担任から学生への電話や学生同士が連絡を取り合い担任に報告するなどして確認をとったほか、実家のある被災地に滞在していた学生については、担任が災害用伝言ダイヤルを通じて安否の確認を行いました。

大学の各担当事務部門では、学生とのこうした直接のやり取りのほか、大学に登録してある保護者の職場に連絡をとるなどして、精力的に被災状況の把握に努めました。が、全学生の無事と被災学生の被災状況が判明するのには 1 か月近くを要しました。

今後の万一に備えて

3.11 大地震では本学園の建物に大きな被害はありませんでしたが、その後も相次ぐ余震や大停電の懸念から学園の最大行事の一つである卒業式や入学式を断念せざるを得ませんでした。

これら大学行事に関する連絡も含め、緊急時の通信手段として固定電

話、携帯電話、e メール、パソコン、ユニパなどのツールを複合的に利用することが有効であることが明らかになりました。今後仮に大災害が発生した場合は大学ホームページ上で即座に学生・教職員向けの緊急連絡用のバナーを作成するなど今回の教訓を最大限に活かしていきます。

緊急時奨学金、被災学生・教職員への緊急支援等

安否確認により在学生、教職員、さらに 4 月に入学を予定していた新入生の中にも被災者がいることがわかりました。

大学では在学生については緊急時奨学金の支給、新入生については入学金免除

等の措置を迅速にとりました。各学部杏会（保護者会）からも多くの支援が寄せられ、学内では教職員による義援金募金が行われました。

被災学生に緊急時奨学金を支給

震災により大きな被害を受けて経済的困窮に陥った学生に対して、通常の緊急時奨学生制度の手続きを大幅に簡素化し、迅速に救済措置をとりました。

それにより、実家が全壊するなど経済的に困窮状態に陥った宮城県と岩手県出身の外国語学部生 2 人と福島県出身の保健学部生 1 人にこの救済措置を適用し、緊急時奨学金の支給を決めました。

杏林大学では、大きな被害を受け勉学を続けることが困難な学生に対しては、今後も同様の措置をとることにしています。また、学納金などの延納措置や日本学生支援機構の奨学金緊急採用及び応急採用の申請も受け付けています。

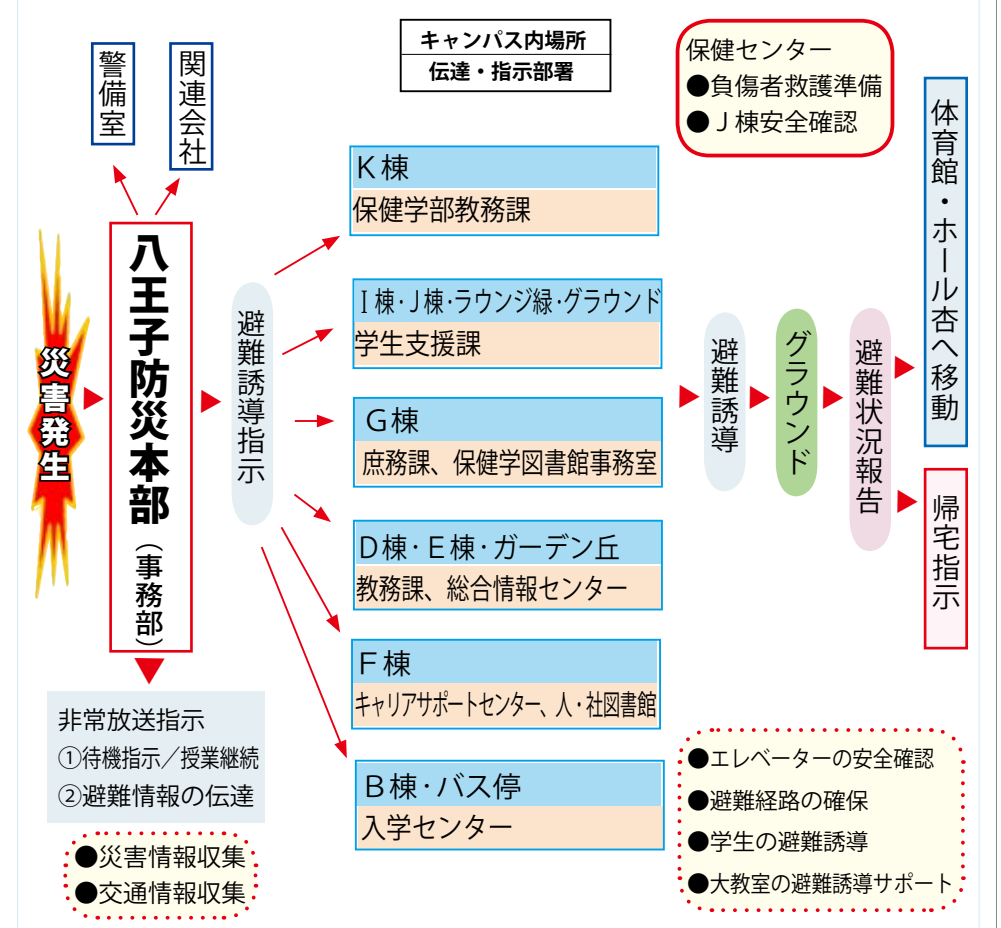
八王子市周辺の大学・短大で構成する「大学コンソーシアム八王子」は 8 月 17 日から 23 日まで、東日本大震災で被災した岩手県に復興支援として総勢 80 人の学生ボランティアを派遣しました。本学からは保健学部 4 年生、総合政策学部 1 年生 2 人、外国語学部 2 年生の計 4 人が、他大学生とともに、大槌町や陸前高田市などの仮設住宅で、子ども向けの学習支援や被災者との交流などを行いました。



安全・安心なキャンパスに向けて

八王子キャンパスでは災害時避難体制を再確認し、災害時避難体制案を策定しました。学生がキャンパスに多く滞在する時間帯でもスムーズな避難、誘導ができるよう、訓練を実施したり、災害時のパターン別に細部に見落としがないかを確認していくことにしています。

八王子キャンパス災害時避難体制





杏会から被災学生支援に 730 万円

6月4日に八王子キャンパスで開かれた保健学部、総合政策学部、外国語学部の杏会（保護者会）の各総会で会費の中から被災学生へ支援金を拠出することが了承されました。

医学部と看護専門学校の杏会からも同じように支援金が提供され、総額730万が大学に寄せられました。

後期になって修学困難に陥る学生が出ることも考えられるため、これら杏会からの支援金は基金化して被災学生の経済支援に充てることにしています。

義援金募金の集計結果報告と配賦

また、被災された学生及び教職員のご家族に対し、直接配賦することを目的とした義援金募金が行われました。教職員並びに学生・ご父母の

皆様方から、各職場に設置した募金箱並びに銀行口座に振り込まれた義援金募金総額が合計2,412,755円となり、義援金、見舞金として配賦します。

災害備蓄計画

・八王子キャンパス

八王子キャンパスには約4,000人の学生が学んでいます。

キャンパス滞在中に震災が発生した際の避難場所にはグラウンドが指定されています。しかしその後の状況により帰宅が困難となった場合は、松田記念館（体育館）が避難所となります。

構内避難生活に備えて、これまでも食品、飲料水、災害時マンホールトイレやテントなどを確保していましたが、杏会のさらなる支援を受け、整備を進めることになりました。

平成23年度備品購入により、学

生1,000人が2日間の構内避難生活が可能となります（右表）。

さらに、次年度以降、最大3日間の避難生活ができるよう備蓄品の購入を3か年計画で進めていきます。

・三鷹キャンパス

医学部では、学生の学内滞在中に大災害で交通機関が不通になった場合、在学生600人余のうち約300人が帰宅困難になる可能性があるかと推測しています。このため杏会の協力を得て、今年度から100人分ずつ3年かけて、水や非常食、毛布などを校舎内に備蓄していく計画です。

保健学部看護学科では、400人の在学生中7割が帰宅困難になるものとみており、これまでに備えている飲料水（500ml）240本、缶入りビスケット600食等に加え、今年度中に毛布やパン、飲料水、発電機を追加し、次年度以降も備蓄品を増やしていくことにしています。

八王子キャンパス災害備蓄品

これまでの備蓄品に加え、平成23年度中に整備される八王子キャンパスの全備蓄品リスト

項目	品名	数量
食品	アルファ米	2,200 食
	災害備蓄用パン	2,200 食
	乾パン	2,200 食
	缶入りビスケット	610 食
飲料水	長期保存水（500ml）	7,600 本
生活用品	バック毛布	400 枚
	レスキューシート	700 枚
	災害用マンホールトイレ	7 台
	トイレ用パーソナルテント	7 台
	簡易トイレ	3,500 個
	懐中電灯スタンド	50 台
	LED ランタン	50 個
	災害用食器セット	1,500 セット
	災害用クッションマット	15 本
	生理用品	4,032 個
	50 人用救急箱	10 セット
	釜戸・釜	3 個

その他救急用装備

また看護専門学校では、在校生300人余のうち寮生、近隣在住者を除く約150人が帰宅困難になる可能性があるかと推測し、今年度よりまず飲料水（500ml）240本、缶入りビスケット200食を備蓄倉庫に備えることにしました。

杏林大学名誉学長に竹内先生と長澤先生

名誉学長の称号は、本学の学長として在籍し、特に功勞の顕著であった方に授与されるものです。5月27日に開かれた理事会で、竹内一夫元学長と長澤俊彦前学長に授与することが承認され、その場で松田博青理事長から称号記が手渡されました。

竹内元学長は昭和63年4月から10年間5代目の学長を務め、この間、大学基準協会の維持会員として全学部の加入・登録を果たしたほか、センター入試への参加をはじめ入試制度の多様化、多数の外国人留学生や社会人・帰国子女の受け入れ、セメスター制度の導入、公開講座の運営、自己点検・評価の実施などの大学改革を



外科医と学長と

竹内 一夫

長かった昭和年代最後の春（1988年4月1日）、私は杏林大学学長の辞令を頂きました。

構内は春爛漫の新学期ではありましたが、杏林学園の創立者で、前任者の第4代学長でもあった松田進勇先生が同年2月21日に他界されたばかりで、学園全体が未だ悲しみに包まれていたことを覚えています。

それまで医学部長を務めていた私は、前年末に設置が認可された外国語学部を含めて4学部になった総合大学の学長として、当分医者は廃業になるかも？と覚悟を決めました。娘一人の私が、突然さらに三人の子供をもったようなものかも知れません。

以来10年間、幸い各学部はそろって順調に育ってくれたので、無事に学長の職を長澤俊彦先生に引き継ぐことができました。

それから更に13年が経った今日、在任中の思い出もだいぶ薄れてしまいましたが、専門馬鹿の私に、何かにつけて賜りました松田博青理事長のご助力、ご助言をた

いへん有難く思っています。お陰様でどうやら医学からもあまり遠ざかることもなく、未だに新着の医学誌には目をとおしています。時には論文や雑文も書いています。法改正以来とみに忙しくなった厚生労働省の検証会議にも出ています。

たまたま母校の学長になった内科の教授が、聴診器を捨てたとさびしく言ったことを思い出しましたが、私は常にメスを執る情熱だけはもったまま、何とか学長の務めを果たすことができましたことを感謝しています。



1996年の秋学期学位記授与式に参列される竹内学長（写真左）と長澤医学部長・医学研究科長（当時）



推進されました。

長澤前学長は竹内元学長の後を継いで平成10年4月から昨年まで12年間学長を務め、この間、国際交流センターの設置や保健学部・総合政策学部・外国語学部における学科の新設、改組に主導的な役割を果たすとともに学生からの評価を取り入れた教員評価制度を確立、さらにはインターネット環境の整備や地域交流促進にも力を注がれました。また平成17年に「杏林学園中長期改革に関する提言」を、平成21年度はそれに続く「中期計画検討委員会報告」をまとめ、杏林大学の今後の道筋を作られました。



名誉学長の称号を いただいて

長澤 俊彦

このたび学園から名誉学長の称号をいただき、大変光栄に思うと同時に心から感謝いたします。医学部創立の1970年9月に医学部助教授として本学に赴任してから、2010年3月学長退任までの足掛け40年間の長きにわたり、本学にお世話になりました。この間、絶えずご指導と励ましをいただいた故松田進勇理事長と現松田博青理事長に深甚の謝意を表します。

本学に赴任して医学部を退任するまで思う存分、内科臨床、特に専門の腎臓病学とリウマチ・膠原病学に専念できたこと、臨床医学の領域で、現在社会の真ただ中で活躍している多くの弟子を育てることができたことは私のかけがえのない財産になりました。

1998年4月に学長を拝命してから退任までの12年間で最も腐心したことは、八王子キャンパスのハード・ソフト両面の充実でした。委員会を発足させて、杏林大学八王子キャンパスの将来構想に関する提言（平成16年9月）、中長期改革に関する提言（平成17年12月）を理事

会に提出して、その多くを認めていただき図書館、体育館、食堂などの学内アメニティの充実が図られました。また、学部教育に関するFD活動の一環として、平成17年8月に4学部全教員から学部教育に関する提言を提出していただき、冊子にまとめたことも記憶に残っています。一方、文部省（当時）より大学の自己点検・自己評価が義務付けられて、本学も平成13年度に大学基準協会の評価を受けました。このため、医学部伊藤泰雄教授に学長補佐になっていた、500ページからなる「杏林大学の点検・評価報告書」が作成され、今後の杏林大学の発展のための貴重な資料となりました。この場をかりて、伊藤名誉教授に感謝申し上げます。

一方、大学教育は教員と職員が共同して行ってはじめて実りある成果が得られること、換言すると教員と職員は車の両輪であることを痛感しました。

12年間学長の職を支えてくださった教職員の皆様に心から御礼申し上げ、今後杏林大学が益々発展されることを衷心から願ってやみません。



総合大学の特長を活かして 「学部間連携科目」始まる

杏林大学第 2 次中期計画（平成 21 年度策定）の中で、教育改革のいわば目玉事業と言える教育融合の新しい試み、「学部間連携科目」が本年 4 月から各学部で始まりました。

この「学部間連携科目」は、本学が医療系学部と文系学部を持つ総合大学である特長を活かし、各学部の必修科目の中で他学部の専任教員が講義を担当することによって、学生に幅広い視野と教養を身につけてもらおうというものです。この夏までに 13 人の教員により、医学部と外国語学部でそれぞれ 3 コマ、保健学部で 5 コマ、総合政策学部で 6 コマの

医療科学 B（人文・生命科学特論）

対 象：医学部医学科 3 年生



講座を担当した
総合政策学部
久野新講師の談話

今回は医学と経済学の共通項を提示しつつ、「経済成長の理論」というテーマで医学部生が興味を持てるようなストーリーを組み立ててみました。医学では人間の健康を維持するための条件、健康を阻害する要因に関する研究が行われています。経済学においても経済が順調に発展するための条件、経済成長を阻害する要因に関する研究が長年行われてき

ました。それにもかかわらず世界には貧しい国があるのはなぜか。ここでも医学と経済学との類似点があります。いくら医学が発達しても、患者が生活習慣や服薬について医師の指示を守らなければ健康を維持することはできません。同様に、いくら経済学が進化しても、途上国の政治家が国として不可欠な各種投資を怠り、近視眼的で私利私欲に基づく政策ばかり実施しては長期的な経済成長は実現できません。

この講義をきっかけに医学部生の皆さんが経済について少しでも関心を持って頂けたなら幸いです。

保健学概論 I

対 象：保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科 1 年生



講座を提供した
保健学部
岸邦和教授の談話

この講座ではこれから保健学の各専門分野を勉強するための基礎を学びます。

学部間連携科目として「人間の尊厳と公平」をテーマに総合政策学部の先生には利潤の分配や医療費の負



保健学概論で取り上げるテーマは、iPS 細胞や薬の安全性など様々。一連の講義のまとめとして 1 コマを使ってグループディスカッションを行う。外国語学部吉村ケイ子教授の講義（上）。活発にグループディスカッションをする学生（下）。

担について、外国語学部の先生には不平等の是正策、差別の克服について講義をしていただきました。



総合政策学部でレクチャーする医学部 神谷茂教授



外国語学部 金田一秀穂教授の話に聞き入る医学生

講義が行われました。受講した学生の一部からは大学側の狙いが十分に伝わっていないと感じられる意見もありましたが、更に発展させてほしいと望む声が聞かれるなど概ね好評でした。

この計画の推進にあたっている中期計画実行委員会教育融合部会（部会長：小野田欣也総合政策学部教授）では、本学の教育の質向上を目指し、今回の実施結果を総括した上で今後どう改良・充実させていくか検討するとともに、次のステップとして全学的な教養講座、杏林科目（仮称）の設置や他学部履修の推奨などを検討することにしています。

● 平成 23 年度前期の学部関連連携授業

学部	授業科目	担当教員	テーマ
医学部	医療科学 B (人文・生命科学特論)	保健学部 島 幸夫准教授	臨床化学の仕事、研究
		総合政策学部 久野 新講師	経済成長の理論
		外国語学部 金田一 秀穂教授	日本語の使い方
保健学部	保健学概論 I	総合政策学部 北島 勉教授	医療費負担の公平性について
		総合政策学部 久野 新講師	報酬の公平な分配について
		外国語学部 北村 一真講師	社会における自由と平等
	医学概論	外国語学部 吉村 ケイ子教授	リンチとリンチ写真をめぐって
		総合政策学部 齊藤 崇准教授	環境保全と社会
	看護学概論	医学部 古賀 良彦教授	ストレスに対する香りと食品の効果
		医学部 高橋 信一教授	H.pylori 感染症から見た医学研究の歴史
		医学部 神谷 茂教授	感染症とプロバイオティクス：細菌を上手に使う健康を維持する
総合政策学部	社会のしくみ I	保健学部 和田 貴子教授	病院前救急医療と救急救命士の役割
		外国語学部 黒田 有子教授	コミュニケーションを考える
		医学部 神谷 茂教授	感染症とプロバイオティクス：細菌を上手に使う健康を維持する
外国語学部	コミュニケーション 概論 -1	保健学部 和田 貴子教授	救急隊員に必要な接遇とコミュニケーション
		総合政策学部 糟谷 崇助教	情報化社会とコミュニケーション
		総合政策学部 糟谷 崇助教	情報化社会とコミュニケーション

● 受講学生の感想

・コミュニケーションは情報発信であり非常に重要。しかし重要なルールもある。自分になかった考えを学ぶことができました。（総合政策学部学生）

・他学部の先生の授業は非常に興味深かった。教養を深めることは、医師になってからも求められていることだと思うので続けていってほしい。（医学部学生）

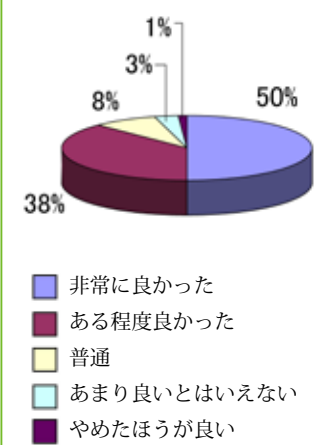
・金田一先生は言葉についてとても判りやすく話をしてくれて興味深かった。医学と違う分野を学ぶことにもかなりの価値があるとわかった。（医学部学生）

・人文・社会科学系の先生の講義は普段の授業に直結することはありませんでしたが、私たちが学んでいる多くの事柄が社会問題を抜きに語れないと思うので、とても参考になりました。（保健学部学生）

・他学部の先生の話はいろいろな意味で新鮮です。他人との考え方の違いや、結論には様々なアプローチがあることを実感できる講義でした。（保健学部学生）

● 講義アンケート

授業科目 医学部医療科学 B
回答総数 96/104 名
回収率 92%



学園創立 50 周年へ

クロニクル

杏林年代記



杏林学園は 1966 年に開学し、2016 年に 50 周年を迎えます。「杏林年代記」では、懐かしい写真とともに、先人達の業績を振り返

ります。第 2 回となる今回は、学園創設および校歌に関するエピソードについて紹介します。



杏林短期大学校舎（上）。万国旗はためく杏林学園開学式（左）。短期大学 1 期生・薄切実習の様子（下）。

本学は、1966 年に「杏林学園短期大学」として開学しました。設立の目的は、「現代医学の進歩に即応するため、高等学校教育の基礎の上に、一般教養を施すとともに、衛生検査に関する専門教育を実施し、



が思い出されるということです。

杏林大学はさらに 1984 年に社会科学部を開設、つづいて 1988 年に外国語学部が誕生して総合大学へ発展していき

ます。校歌は 1975 年に作られました。大学が総合大学へ発展していく過程で校歌の歌詞が一部変更されています。当初は「奥深き 医王の道を 願ひ求めん」だった部分が、現在は「～ 学びの道を～」となっております。医療の分野のみならず、広く社会に貢献できる人材を育成するという、大学の構成が変遷したことがここからも読み取ることができます。

この校歌は様々な歌謡曲、軍歌等幅広いジャンルで名曲を生みだした古閑裕而氏の作曲です。校歌を収録したレコードには、「青い山脈」等多くのヒット曲を放ち、国民的歌手として知られた藤山一郎氏の歌声が収められています。作詞は、医学部教養課程で国文学の教鞭を執られた池田文雄先生によるものです。

※ 1966 年【本学園創立・杏林学園短期大学開学】の出来事 ▼ 祝日法改正、建国記念の日・敬老の日・体育の日が新たに祝日となる。 ▼ 日本でメートル法完全施行。尺貫法・ヤード・ポンド法などの公的な使用が禁止(5 万円以下の罰金)される。 ▼ 「笑点」(NTV)放送開始。「ウルトラマン」(TBS)、「魔法使いサリー」(NET) 放映開始。 ▼ この年は丙午（ひのえうま）にあたり、出生数は約 136 万人と他の年に比べ極端に低い数値となった。など

卒業生リレー



もう何十年も前のこと、医師国家試験が終わった翌日から、私は真剣に悩み始めた。「このまま医者になろうか、それとも落語家になろうか」。ちょっと聞くと冗談にしか思えないかもしれないけれど、当時の私は真面目だった。

その後、自分の悩みに結論を出すことができないまま、内科の研修が始まった。まるで24時間勤務みたいな生活から、研修が終われば、出張、大学での臨床、学位論文の仕事。はっと気が付いたら40の歳を過ぎ、どっぷりと医者に漬かっていた。

学生時代、落語研究会（オチケン）を創設し、関東医科大学落語連盟を立ち上げ、完璧に落語にはまっていた。プロの落語家になりたい、そんな願望は在学中から湧き上がっていた。しかし次から次へと降るようにやってくる現実の前には、そんな淡い夢など吹き飛ばされていた。

でも心の奥底では、「やっぱり落語家

医師の経験を活かして健康落語を皆さまに

立川らく朝

(医学部 1979 年卒 本名 福澤恒利)

になりたい」。そんな葛藤は酒を飲むたびに愚痴となって現れた。「俺、本当は落語家になりたかったんだよ」。それを聞かされるのは、いつもオチケンの後輩だった。

ある日後輩が、「福澤さん、読んでみて」と持ってきてくれたのが、立川談志が書いた、『あなたも落語家になれる』という本だった。その本を読み終わった直後、私は談志の事務所に電話をしていた。「すみません、私、落語家になりたいんですけど…」

そして今、私は立川流の落語家、立川らく朝としてプロの高座に上がっている。46 歳で入門、医師と落語家という二つの専門性を生かしたオリジナルの新作落語、「健康落語」を創作し続けている。

本当に幸せだと思っている。苦しみ、焦り、もう耐えられないんじゃないかと思うほどのプレッシャー、そんなものは常に付きまとっているけど、落語家・立川らく朝は、今日も元気に、着物持参で全国を飛び回っている。

そうそう、後輩の皆さん、一つだけ忠告しておきますね。どう間違っても、決して“落語家”になろうなどと思っはいけませんよ。くれぐれもご注意ください！

福澤恒利さん

1954 年生まれ。

1996 年 立川志らく師匠の主宰する勉強会「らく塾」に入会。
1998 年 44 歳で立川志らく門下に客分の弟子として入門。
2000 年 46 歳で立川志らく門下に正式な弟子として再入門。
2002 年 11 月 表参道に「表参道福澤クリニック」開院。
診療科目は内科、生活習慣病指導、管理栄養士による食事指導、健康運動指導士による運動指導など。
2003 年 立川流家元、立川談志に認められ二つ目昇進。
著書に『立川らく朝の一笑健康』『笑えば治るー立川らく朝の健康ひとり語り』『立川らく朝のお笑い健康手帖』他多数。

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

インドで弟子入り？

伊藤隆仁

(総合政策学部企業経営学科 4 年)

私は今インドのバンガロールにいます。インドについては日本でニュースや新聞などで知る限りの知識しかなかった私かなぜ!? と思う方も多いと思います。

私が公認会計士を目指して勉強をしていた大学3年生のころ、「もっと世界を見よ」とアドバイスをくれた会計士やインドで就職するネパール人留学生との出会いを機に、目覚しい経済成長を遂げている国、インフラ整備こそ遅れているものの人々の活気に満ち溢れている国、インドに興味を持ち、この国で起業の夢を実現できないかと思うようになりました。学問と実務の差は大きいのに、ましてや舞台はインド。とにかく基礎はしっかり身につけておこうと、大学では経営管理、財務管理、アジア経済など広く多くの分野を勉強してきました。

昨年 11 月、単身インドに渡りデリーで会社訪問をしました。海外に行った経験もなく、英語も話せない私でしたが、日本企業の人事採用担当者に電話で会社訪問のお願いをしました。その際、英語力や世界で戦える専門性とスキルを身に



大人も子ども達も日本人の私を快く受け入れてくれます。日本同様、インドでも多くのメンターに支えられていることを改めて感じています。



勉強中の会社「Green Life」のクリシュナパ社長と。

つけなければいけないことや、インド人の国民性や金銭感覚などを知っていなければ働けないと感じました。

12 月に一旦帰国し、日本とインドの企業の橋渡しをしている経営コンサルタントのもとで勉強できることになり(実は何度も断られたのですが)、ここで実社会で必要な経営に関する知識を一から学びました。

そしてゼミの教授の了解をいただき、卒業論文の実地調査を兼ねてこの夏、再びインドの地に向かいました。

ここインドでの平日のスケジュールは午前 8 時から 12 時まで英語学校に通い、様々な目的をもった韓国、スペイン、サウジアラビアの人たちと共に会話と文法を学んでいます。午後は知人の会社社長の“かばん持ち”をして、会社の経営や財務について勉強する日々です。

将来はインドで仕事をしたいと思っていますが、就労ビザを得るには高いハードルがあるということです。お世話になっているコンサルタントの方には「自分のビザは自分で勝ち取れ」と指導されました。かなり難しいと思いますが、なんとかクリアして、インドで貿易に関する仕事に就くという夢を果たしたいと思っています。

学生支援・学内アルバイト

図書館編

図書館サポーター育成に向けて

学生と図書館をつなぐピアサポーターの役割を期待

人文・社会科学図書館（八王子キャンパス）では今年 6 月から学生アルバイトを採用しました。アルバイト期間は 6、9、10、11、12 月の 5 か月間。授業の 1 コマ（1.5 時間）単位で登録して、授業のない時間に作業を行うため、学生にとっては時間の有効活用が図れることもメリットです。5 月に行われた説明会には 70 名を超える学生が参加しましたが面接などを経て、外国語学部、総合政策学部、保健学部の学生と大学院生の 9 人が採用されました。

アルバイト学生には、図書館業務を通して図書館の利用方法などを知ってもらい、

将来的には図書館サポーターとしての活躍が期待されています。現在その育成を視野にいて 1 週 10 コマ程度でアルバイトを実施しています。試行期間も含む 6 月は 2 人ひと組で、本のラベル貼り、書架整頓、資料の抜き取りなどを職員の指導のもと行いました。9 月からは、学生への利用アドバイスなどもしてもらえるように、徐々にステップアップしていく予定です。これは広い意味でピアサポートの素地作りとも言えます。在学生が携わることで、学生と図書館との距離を縮め、積極的に利用してもらえる図書館を目指していきます。



学生に図書館業務を指導する

小野寺春子さん

(人文・社会科学図書館課長補佐)

このアルバイトは授業最優先であるため、授業開始時間には作業の途中でも切り上げてもらいます。仕事は一見単純作業のようにも見えますが、一つ一つが図書館利用者の役に立つことを理解してもらえるといいですね。今後は学生からの簡単な相談などにも対応できるように、一緒に頑張っていきたいと思っています。ま

た学生がこの仕事をしていく過程で、図書館利用に関する斬新なアイデアを出してくれることを期待しています。

今回のアルバイト募集の反響には大変おどろきました。当初図書館でアルバイトをする学生はいないのではないかと考えていましたが、多くの学生に説明会や面接に参加いただきました。残念ながら全員を採用することは出来ませんので、今回は 9 名の採用になりました。今年の 9 名を核に、来年度以降も新たな募集を考えています。



本のラベル貼りを行う渡辺さん(右)と望月さん。「自分でラベルを貼った本が書架に並ぶと思うとわくわくします」と渡辺さん。

渡辺沙織さん (保健学部健康福祉学科 2 年)

授業の空いた時間にアルバイトができるのはとてもいいです。書架に並べた時に利用者に見やすいよう、本の下から 1.5 センチのあたりにラ

ベルを貼ります。はじめは見やすいようにラベルが貼れたか心配でしたが、慣れてくると楽しい仕事です。

望月美沙さん (外国語学部英語学科 1 年)

利用者に蔵書を紹介するポスターをパワーポイントで作りました。わかりやすく伝えることはとても難しかったけれど貴重な経験になりました。書架整頓をしていると、いろいろな蔵書があることがわかります。探していた本が見つかったときは感動しました。



学部・大学院トピックス

医学部

図書館医学分館でマンガが読めます

京都精華大学にマンガ学部があり、マンガコースは 14 の大学に設置されています。当大学図書館にマンガがあってもいいのだ、と赤塚不二夫調に昨年から医学分館で購入をはじめました。「医療マンガ」のジャンルが確立されるきっかけをつかった『ブラック・ジャック』をまず入手し、『Dr. コトー診療所』『JIN- 仁 -』と続き、『医龍』『夜光虫』などの購入を予定しています。

一方、当館は看護の学生さんの利用も多く、『おたんこナース』を注文したところ、付属看護専門学校がすでに『光とともに・・・～自閉症児を抱えて～』を購入しているのを知り、この阿吽の成り行きをうれしく思いました。

マンガ購入の理由は、医師や看護師になるためのモチベーションアップとリフレッシュ効果を狙って、です。館内での閲覧が多いのでまだ統計データはありませんが、幸い、ユーザーからは好評のようで、ネガティブなご意



マンガは図書館入り口近くのブラウジングコーナーにあります。

見は皆無です。しかし、貸し出し記録からはまだ周知されていないようですので、ポスターの掲示など広報活動を充実させていただきます。ぜひ、八王子キャンパスのみなさまもご利用ください。

(図書館長・医学部教授 大野秀樹)

保健学部

作業療法学科の教育が始まる

2011 年 3 月 11 日、巨大地震と大津波による未曾有の被害をもたらした東日本大地震。その影響を受け、入学式が中止されるという異例の新年度に誕生したのが保健学部 7 番目の作業療法学科です。私たち教員、そして、新しい学科の 1 期生 46 名にとっても印象に残るスタートとなりました。その 46 名のうち 1 名が被災を理由に 1 年遅れてのスタートとなり 45 名が在籍しています。余震や原発事故、節電等落ち着かない大学生活となった学生たちですが、教員の心配をよそに元気いっぱい勉学に励んでいます。しかし、彼らにとって「作業療法」という未知の領域へ一歩を踏み出し、高校とは違う自発性、自主性を要求される大学生活や、自分の方向性に戸惑うことも多くあると思います。そのようなとき



上肢切断者の前腕に残存している筋の筋電位を利用して義手の把持動作を制御する筋電義手を用い、筋電位制御のしくみを体験する学生。左は指導にあたる森田教授。

にこそ、作業療法士としての実務経験豊かな教員がサポートできる体制を整えていこうと考えております。

学生たちは前期を終え、大学の講義や生活に慣れてきたことと思います。9 月に入り、夏休みも終わりに近づいたところで、いよいよ作業療法士の働く場を見る見学実習が始まります。先輩作業療法士の働く姿を見ることで自分たちの将来像を描く手助けになることと思います。そして、これからの 4 年間の目標が明らかになり、どう過ごしていくかの道筋が少しでも具体的になることを願っています。

(作業療法学科教授 森田千晶)



人工臓装置。空気圧で動作する拍動型ポンプ（心臓）が、チューブとタンク（全身の血管）につながっている。ポンプが送り出す液体（血液）は、チューブとタンクを経て、再びポンプに戻る（循環）。ポンプの動作状態などを変え、循環する液体の圧力（血圧）への影響を理解する。嶋津研究室で作ったオリジナルの装置。

「考えること、理解すること」に主眼を置いた学習に努めるようにと、口うるさく言い続けています。工学は理解することから始まるからです。分からないまま覚えるのでは先につながりません。その意味でも、教員に対する質問は重要です。疑問点だけでなく関連する基礎知識も同時に学習できる可能性があります。私たちもできるだけ教員と学生の距離を近づけて、有意義な学生生活を楽しめるようにと思っています。

(臨床工学科教授 嶋津秀昭)

臨床工学科で学ぶ

臨床工学科は比較的新しい学科で、卒業学生もようやく今年で 2 回目になりました。2 回とも国家試験の合格率 100% を達成し、当然の結果と教員一同、満足しています。本学科の大きな教育目的である臨床工学技士の養成は医療現場に工学的素養を持つ医療人を輩出することにあります。入学してくる学生たちは、もちろんこの点については十分理解していますが、物理や化学といった工学の基礎となる学習に必ずしも自信を持っている訳ではありません。むしろ苦手意識を持つものも少なくないのが現状です。一方で、臨床工学技士という新しい職種に大きな興味と希望を持っていることも事実です。当学科は医学と工学の基礎の両方を早い時期から、繰り返し学習することを念頭にカリキュラムを作ってきました。国家試験にはこの成果が端的に表れていると考えています。学生諸君には日頃から「覚えること」を優先するのではなく、

学習施設の改修

●医学部

この春、定員が昨年より新たに 6 名多い 117 名の医学部生が入学しました。

この定員増加に伴い、6 つの講堂と 4 つの実習室、学生ホールを改修することになりました。改修工事は授業や実習がない期間に実施するため、3 月に講堂と一部の実習室、学生ホールを改修。7 月下旬から始まる夏季休暇中に残る 2 つの実習室の改修を行い、予定していた一連の改修工事が終了します。9 月には新しい実習室での学習が始まります。

●看護専門学校

平成 21 年から始まった教室と演習室の改修工事が今年の夏をもって終了します。

改修されたのは 1 年生から 3 年生までの各教室では、机と椅子を全て入れ替え、薄型テレビとプロジェクターを新設しました。今夏最後の工事となる大演習室も机や椅子を更新し、同様の備品がそろいます。



各講堂は机や椅子を増設し、スクリーンやプロジェクターも設置された。パソコンを使う学生も多いことから各机にはコンセントが配置された。



講義棟 2 階の学生ホール。学生が快適に過ごせるよう暖かみのある色使いで全体を統一。木材で作られたテーブル 17 台、椅子 62 脚を設置。ホール横にはお湯の出る水道設備や電子レンジも置かれ、昼休みには昼食をとる学生が多く集まる。



ライトグリーンの椅子で教室全体の雰囲気も明るくなった。学生たちの評判も上々。

キャンパス情報⑥

きよしぞうえん 喜吉造園



キャンパスを訪れる人からよく「緑がきれいですね」という言葉が聞かれます。杏林大学の八王子・三鷹の両キャンパスの木や植え込みを学園創設時から管理されている喜吉造園の矢島克好会長に話を伺いました。



「医師や看護師になって活躍する卒業生を見るのも楽しみ」と矢島さん（左）。市内の名所の一つとして八王子キャンパスの杏の花を観賞するツアーがある（上）。三鷹キャンパス正門脇の杏の木は学園のシンボリックな存在（右）。



いつ頃から学園の植木の世話をなさっているのですか。

いまから 50 年前、先代の松田進勇先生が新川総合病院を開院された当時から植木のお世話をしています。

進勇先生同様、いまの理事長も緑がお好きで大切にしているので、だんだんといまのような緑の大変多いキャンパスになったのです。

思い出に残るエピソードなどありますか。

キャンパスに初めて植えた杏の木は、私が上諏訪まで出かけていただいてきたものです。短大から大学になり、医学部の 1 ～ 3 期生が毎年一人 1 本ずつ植樹していたものが、いま毎年花を咲かせ、実をつけるまでに成長したのが八王子キャンパスの杏です。

当時の学生さんたちも立派なお医者さんになられました。杏林学園をこの目でずっと見てきたので、今ではいろんな人が昔の古い話を聞きに来たりするんですよ（笑）。

学びの場であり、憩いの場である 2 つのキャンパスのトータルデザインをお聞かせください。

八王子キャンパスは雑木林や美しい斜面など豊かな自然を生かしながら、キャンパスの役割と機能性を考慮した植栽をしています。病院としての役割もある三鷹キャンパスは、レストランには空中庭園、病室からも緑が目に入る暖かみのあるやさしいデザインを提案しています。

お仕事をする上で心がけていることはなんですか。

いつでもきちんとした仕事をする事です。こういうことは必ず誰かが見えています。私たちの仕事はいい加減な気持ちではできません。きちんと手入れをして、しっかりと育てる。樹木が病気になるれば治すし、移動することになれば次の場所でも元気に根を張れるように守ってやるのも仕事です。

その結果、患者さんやキャンパスを訪れる人が喜んでくれるのならこれ以上のことはありません。

総合政策学部

授業レポート

キャリア開発論（企業経営学科）

今年度の企業経営学科キャリア開発論（講座担当：木村有里、荒井将志）のテーマは、「夢を仕事にしよう！」です。

就職戦線の厳しさが強調される昨今、大学生生活の早い時期から就活「対策」がはじまっています。しかし、これから何十年もつづく長い職業生活を充実させるためにも、大学生の今だからこそ、じっくり真剣に考えなければならないことがあるでしょう。それは、将来への展望、ビジョン、夢といったものです。

本講では、ITベンチャー代表の津田武氏、NPO代表の横田宗氏をはじめ、各界で活躍する方々を外部講師に迎え、豊富な経験とご自身のキャリアについて語っていただきました。



「夢を仕事にしよう・社会を変える力になろう！」体験談をもとに働くことや人との出会いについて語る横田宗氏。

木村有里 企業経営学科准教授

受講した学生が、人との出会いや挑戦することの大切さを強調していたことは印象に残りました。学生たちは、講義を聞き感想をまとめる過程で、自分は何をしたいのか、何になりたいのか集中して考えるようになりました。講義後の講師との交流から、アルバイトやインターンシップの機会を得た学生もいて、大変うれしく思っています。



キャリア開発論 受講学生の感想



羽根田 憲
企業経営学科1年
毎回新しい発見があり、飽きない授業。いろいろな分野で活躍する方の話を聞くと、インスピレーションがわき、考え方が広がります。専門分野を学ぶ授業とは違い、この授業では実社会と自分の将来について具体的なイメージが頭に浮かびます。将来の進路の選択肢が広がる気がして、興味をもって授業に臨んでいます。

他大学の学生と一緒に、八王子駅前のフェアトレードカフェの運営に携わっています。フィリピンで現地の人々の生活改善と自立支援に取り組む横田さんの活動に興味を持ちました。「人とのつながりを大切に」という横田さんの言葉は印象的でした。



山際 秀
企業経営学科1年
フェアトレード：途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指す取り組み。

●キャリア開発論前期授業

実施日	内 容	講師
4月 7日	「キャリア開発論」（春）イントロダクション	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
4月14日	働くことの意味について考える	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
4月21日	就職活動の現況、及び活動をする上で重要なこと	日経就職ナビ アドバイザー 小室晃氏
4月28日	「業界」とはなにか？/NPOやNGOで働くとは	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
5月12日	夢を仕事にしよう（1）エンターテインメント業界で働く	エイベックス・エンタテインメント株式会社 原盤制作ディレクター 川井健氏
5月19日	夢を仕事にしよう（2）社会を変える力になろう！	NPO 法人アクション代表 横田宗氏
5月26日	起業について考える/女性のキャリアについて考える	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
6月 2日	夢を仕事にしよう（3）IT業界での起業	Newindex 株式会社 代表取締役社長 津田武氏
6月 9日	女性のキャリア形成とキャリアビジョンの描き方	プロフェッショナル・キャリア・カウンセラー 東京学芸大学特任准教授 坪田まり子氏
6月16日	「公務員」として働くとは？/公務員の責任と倫理	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
6月23日	夢を仕事にしよう（4）公務員の仕事とは	本学キャリアサポートセンター 後藤富士子氏(元警察署長)
6月30日	学生による発表	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師
7月 7日	小レポート講評/総括	総合政策学部 木村有里准教授、荒井将志講師

外国語学部

インテンシブ・プログラム

ネイティブ教員1人に学生7人 実践的かつ高度な英語力を鍛える



インテンシブコースの学生と坂本ロビン教授

英語学科「インテンシブ・プログラム」は学科内の成績上位の約15人の学生が所属するクラスです。1年次には、ネイティブ教員1人につき学生約7人という、少人数教育を実現させ、実践的かつ高度な英語力を鍛えるための授業を設けています。また、学生たちは課外活動として、学内の英語サロンにも参加し、英会話の力を向上させています。2年次終了までに、英語圏への3か月以上の留学や、TOEIC等の英語力を問われる試験での高得点を目指しています。

留学する学生に聞きました



溝口伶奈（2年）

- 留学先：英国チチェスターカレッジ
- 期間：9月から約3か月
- 留学先でチャレンジしたいこと：留学生の友達をたくさんつくりたい。

インテンシブ・プログラムの授業を通して英語の学習には書く、聞く、話すの3つを繰り返し行うことが大切だとわかりました。留学はこれまでの学習の実践の場と考えています。将来は英語が活かせる仕事に就きたいと思っていますが、はっきり職種を決めているわけではありません。留学で自分を見つめることができればと思っています。

鈴木さつき（2年）

- 留学先：ニュージーランドクライストチャーチポリテクニク工科大学
- 期間：9月から約3か月
- 留学先でチャレンジしたいこと：得意の書道、茶道等で日本文化も伝えたい。



多くの困難を乗り越え、大きく成長してほしい 9月に8人の学生が留学



留学は今しかできない貴重な体験です。留学中、学生は自分の力不足や現実と理想のギャップに気がつきます。そういう自分の期待が裏切られたとき、彼らは大きく成長します。不親切な言いかもしれませんが、「思った通りにいかない」ということを様々な局面で体験してほしいと思います。きっと、自分を支えてくれる人がたくさんいることを実感するはずです。

留学は人間形成の場でもあります。「優しい心を持った」、「自己を客観視できる」、「国際感覚の豊かな」、そして「英語力を備えた」すばらしい人に成長すると信じています。

（英語学科准教授 倉林秀男）

三浦 翔（2年）

- 留学先：英国チチェスターカレッジ
- 期間：9月から約3か月
- 留学先でチャレンジしたいこと：趣味の野球で交流を深めたい。



留学した先輩が「準備が大切だ」と言っていたので、今はたくさん英単語を覚えて語彙力をつけています。英語学科では毎学期末にTOEICテストを受けますが、こうした日ごろの勉強も留学に役に立つと思っています。教職課程で教師をめざして勉強中ですが、この留学が自分の将来にプラスになるようがんばってきたいと思っています。

キャンパスで開講している英語サロンで英会話の練習を積んでいます。これまで勉強してきたことがステイ先の家族とのコミュニケーションに役立つといいと思います。とにかく積極的にいろいろな国の留学生と交流を深め、視野を広げてきたいと思っています。

地域交流

杏林大学の地域交流活動

「地域に根ざした大学」をめざして

トピックス● 加住サタデースクールで学生がボランティア講師



教材は子供たちがめいめい持参。「こんなに楽しいボランティア活動があることを友達にも教えたい」と伊藤さん（右）。

本学の学生3名が7月30日（土）、八王子市の加住（かすみ）市民センター多目的室で行われたサタデースクールにボランティア講師として参加し、近隣の加住小学校1～6年生の約50名の児童に対して学習補講活動を行いました。

サタデースクールは八王子市教育委員会が推進している事業で、夏休み期間を利用して児童が不得意とす

る科目の補講を行うほか、もの作りやゲームを通して地域の人たちと多様な体験を共有することを目的に市内の小学校区ごとに実施しています。

今年も加住地区住民協議会から7月30日、8月6日、20日の3日間の派遣要請があり、外国語学部応用コミュニケーション学科4年榎原翔さん、保健学部救急救命学科2年伊藤涼子さん、保健学部健康福祉学科2年近藤彩乃さんが参加しました。7月30日は午前9時から1時間 算数や国語の学習補助を行い、そのあと12時まで読み聞かせの時間となりました。

その中の1人、榎原翔さんは「とにかく子供たちと一緒にいて楽しい。その反面、人に教えることの難しさを味わいとても貴重な体験をさせていただいています」と語ってくれました。

普段、子供たちとあまり接する機会がない学生たちですが、正面から子供たちと向き合うことで、授業では得られない教えることの難しさや、触れ合うことの大切さを実感したようでした。

トピックス● 学生、教員が地域で活動

『平成21・22年度地域交流報告書』発行：地域交流委員会



各種の市民講座・交流会・講習会、地域開放、ボランティア活動、教育活動、調査研究など八王子市、三鷹市、調布市、羽村市などの地域で実施した交流活動を報告書としてまとめました。

報告書は大学ホームページからご覧いただけます。

トピックス● 震災に強いまちづくりを考える 八王子まちづくりフォーラム2011

杏林大学は2007年から毎年、八王子まちづくりフォーラムを開催しています。フォーラムでは八王子市のまちづくりを、教育・研究、産業、生活・子育て、観光・文化などの視点から提案しています。今年は「震災に強いまちづくりを考える」として東日本大震災の状況を振り返りつつ、八王子市を震災により強いまちにする上で何が必要かを考えます。



八王子まちづくりフォーラム2011 震災に強いまちづくりを考える

開催日 11月5日(土)
時 間 13:30～17:00
会 場 八王子学園都市センター
※入場無料・申込不要

●クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて 87 のクラブとサークルが活動しています。
今回は、医学部剣道部と杏園祭実行委員会を紹介します。

●医学部剣道部

伝統とチームワークを大切に
大会上位を目指す



医学部剣道部は杏林大学医学部創立と同時に創部されました。そんな伝統ある部ですが、数年前までは部員が 1 名という廃部寸前の危機にありました。しかし、今では総勢 17 名の部員となり、熾烈なレギュラー争いをするまでに復活しました。

稽古は現在、水・金の週 2 回、松田記念館地下剣道場にて行っています。水曜日は外部からのコーチの先生や OB の先生、杏林大学の職員の先生に来ていただき頻繁に指導していただいています。そのほか、月に数回三鷹高校との合同稽古や、年に数回八王子キャンパスの剣道部とも合同稽古を行っています。このように指導体制も整い、学内外において稽古の場があるので、初心者から経験者まで理想的な環境です。

公式戦には年 4 回出場しており、昨年 8 月の東日本医科学生総合体育大会では女子

個人戦がベスト 8 に入賞しましたが、団体戦においてはあと一歩のところまで決勝リーグに届かない悔しい状況が続いています。いつも応援してくださる先生や諸先輩方の期待に応えるためにも、団体戦で決勝リーグに進み、2 年前のベスト 16 の結果を抜く好成績を目指しています。

わが剣道部は、一般にイメージする「きつい稽古」、「厳しい先輩」とは違い、先生方も部員も気さくな人ばかりで、メリハリのついた稽古をモットーにしています。少しでも剣道に興味がある方は学生、教職員問わずどなたでも歓迎いたしますので、お気軽にお越しください。

(剣道部主将 / 医学部 4 年 村瀬喬弥)

●杏園祭実行委員会

未来に繋がる「今」を表現ー 10/8 (土)・9 (日) 杏園祭



委員会は八王子キャンパスの総合政策・外国語・保健の 3 学部生 130 人で構成され活動しています。今年度は 3 学部合同のスポーツフェスティバルが中止となりキャンパスをあげて取り組む杏園祭の担う役割がより一層大きくなると感じています。

今年の杏園祭は「学生主体」のコンセプトのもと、ゼミの展示や部活動の発表、個人の出し物など八王子キャンパスの学生一人ひとりが主役の杏園祭をめざしています。そんなみんなのチャレンジやエネ

ギーを杏園祭という形にして、杏林大学や、私たちの学生生活を支えてくださっている全ての方々に見ていただくために実行委員会は活動しています。

杏林生らしい、杏林大学らしい杏園祭で、私たち一人ひとりが表現する「今」の姿をお越しいただいた保護者や地域住民の皆様、高校生に見ていただきたいと思っています。(写真は杏園祭実行委員会メンバー)

(2011 年度杏園祭実行委員会委員長 / 総合政策学部 3 年 山本 駿)

キャンパス短信

団体名	大会名 (開催日)	大会結果・トピックス
ソフトテニス部	第 46 回春季クラブ対抗戦 (4 月 10 日) 富士森オープン記念大会 (4 月 24 日) 第 46 回八王子連盟会長杯 (7 月 10 日)	男子団体予選敗退、女子団体 4 位 男子優勝 (佐藤・畔地組)、女子 3 位 男子個人優勝 (畔地雄大)
サッカー部	平成 23 年度第 35 回東京都大学サッカー連盟 春季対抗戦 (6 月 5、12、19、26 日)	1 勝 3 敗 (リーグ戦敗退)
硬式野球部	平成 23 年度東京新大学野球連盟春季リーグ戦 (1 部) (4 月 16 日～6 月 1 日) 平成 23 年度春季新人戦 (6 月 25、26 日)	3 位同率 (連盟規定により 5 位、1 部残留) 2 回戦敗退
男子バスケットボール部	第 60 回関東大学バスケットボール選手権大会 (5 月 5 日) 第 51 回関東大学バスケットボール新人戦 (5 月 29 日) 平成 23 年度東京都夏季選手権大会 (6 月 12 日)	1 回戦敗退 1 回戦敗退 1 回戦敗退
剣道部	第 17 回東京都女子学生剣道選手権大会 (5 月 29 日) 第 54 回東日本医科学生総合体育大会	女子個人 1 回戦敗退 女子個人 5 回戦敗退 (ベスト 36)
ピンツィーズ (ソフトボール)	八王子市 第 8 リーグ (7 月 3、31 日)	2 回戦敗退
写真部	BIG WEST 2011 学生フェスティバル写真展 (5 月 18～22 日)	春をテーマにした写真等約 40 点作品を出展
Street Trickers (マジックサークル)	八王子市域合同学園祭「学生天国」(5 月 8 日)	マジックパフォーマンスを披露

数字で見る杏林大学 ⑥

208

208 本、これは杏林大学に植えてある杏の木の本数です。校名の由来となった「杏林」は中国の故事にちなんでいます。廬山の董奉(とうほう)という名医が、患者さんから金銭を受け取らずに代わりに杏の木を植えさせ、やがて鬱然とした林をなしたというもので、「杏林」は「良医」を意味しています。

八王子キャンパスには 157 本の杏の木があり、これは医学部の 1 期生から 3 期生が一人一本ずつ植えたことに始まります。三鷹キャンパスには 51 本あり、病院を含めたキャンパスを緑で彩っています。

4 年前から、八王子の 3 学部の学生とキャンパスのある宮下町の住民の方は地域交流の形で、杏林大学で採れた杏の実を使い、杏ジャム作りを行っています。今年も 6 月 18 日に行われ、約 100kg の杏の実を使い杏林名物の杏ジャムができました。また、昨年から杏林大学病院でも、構内の杏の実を使い入院食として「あんずゼリー」を患者さんに提供しており、杏ジャムや杏ゼリーはテレビや新聞でも紹介されて話題になりました。

ところで、杏の木と梅の木の見分け方をご存知ですか？ 6 ページに登場した喜吉造園の矢島会長にその見分け方を尋ねたところ、意外にも幹や葉ではなく、花の色で見分けるそうです。梅の花が濃いピンク色であるのに対し杏の花は白色かかった淡いピンクだそうです。

杏の木が毎年もたらす自然の恵み同様、杏林大学は着実な歩みを進め更なる発展を目指してまいります。



●金田一教授の研究室から ⑥

医学の言葉



今年から、各学部の横断的授業が開かれることになり、外国語学部の私も、三鷹の医学部 3 年生を対象に、講義を一回行うことになった。せっかく総合大学なのだから、このようなことはもっとあったほうがいい。外国語学部の学生に医学一般について聞かせてもらいたいと思うし、保健学部の先生が健康について総合政策の学部で講じてもいいと思う。三鷹と八王子は、今まで以上に交流するべきだと思う。

さて、講義当日、私が話したのは、理系の言葉と文系の言葉、その中間の医系の言葉ということ。

理系の言葉は、数字で語られる。安全「性」とか、可能「性」は言えるけれど、あくまでも安心や絶対の約束はできないのが、自然科学の信条であり誇りでもある。それはともすれば人工的であり殺風景になってしまう。一方文系の言葉は、人への愛や信頼を語るのだが、曖昧模糊として感情的であり、論理的な解説よりも身体的な納得を導こうとする。

医学の言葉は、臨床である限り、その中間にあって、その基礎はあくまでも実証的、科学的であらねばならないけれど、人を相手にする限り、わかる言葉、優しい言葉、人間的な言葉を使わなければな

らない。

理系の言葉と文系の言葉の双方に通じていなければ、いい医者とは言えない。説得力があるためには理系の能力が必要であり、信頼を得るためには文系の言葉がいる。近い将来、検査してその数値だけを見て判断してそれを告げるだけなら、コンピュータが完ぺきにやってくれるだろう。機械のできることを人間がする必要はない。どんなポンコツ自動車でも、人類最速のウサイン・ボルトよりは速く走ってくれる。安い電卓でも、暗算名人よりは早く平方根の計算をしてくれる。しかしそれしかできない。機械は辛抱強く、何度でも飽きることなく繰り返すことをしてくれる。機械は不平を言うことなく、危険な作業を大胆正確に行ってくれる。機械の中だけにいれば、それなりの安定が望める。

しかし、人は機械ではないし、機械ほど愚かでもない。人の使う曖昧な文系言語への冒険に、勇気をふりしぼって飛び出してほしい。人を相手にして、愚かな機械のような単純、確実なことは何一つないことを、若い医者を志す人には知っておいてほしい。



健康ひとくちメモ ⑥



バテ対策と生活習慣

夏も終わりになりますと中高年の中に全身倦怠感、易疲労感、意欲低下、食欲低下などの体調不良を訴える人が出てきます。これは夏の高温多湿の生活により、自律神経の働きに変調が生じた影響で、“夏バテ”と呼ばれています。普段より自分の健康に気を付けている人はなりにくいので、夏バテになった人や多忙で健康管理ができない人も、秋に備えて日頃の生活習慣を見直しましょう。

低下した体力の回復や増強のために、生活環境(室温)と生活習慣(食事、睡眠、運動、ストレス、飲酒、喫煙)をチェックしてみましょう。

まだ残暑が厳しい場合は、職場や家庭の室温を 28℃に調節し、下げ過ぎや多湿に気をつけましょう。

食生活は、バランスの良い食事を規則的に食べ、朝食はきちんととりましょう。特に蛋白質、野菜、ビタミンが不足しないように注意し、過剰の脂肪や炭水化物、間食は控え、適正体重を維持しましょう。

睡眠は、7 時間を目標に充分とり、早寝早起きを心掛けましょう。運動は、散

歩や階段を使うなどの軽いものより始め、1 日 10,000 歩を目指して下さい。

ストレスは、過度に続かないように仕事量を調節します。飲酒は、適量(1 日ビール 500ml、日本酒 1 合、焼酎 0.5 合以下)に減らし、深酒は避け、休肝日も設けた方がよいでしょう。喫煙は、禁煙を念頭にたとえ 1 本でも減らしてみます。

これらの良い生活習慣は、夏バテやメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病を改善させ、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血の予防にも繋がります。健康を自己管理する習慣を身につける第一歩として、可能なものからぜひ実行して下さい。

生活習慣を見直しても、全身倦怠感などが続く場合は、まれに病気が隠れていることもありますので、病院や人間ドックを受診しましょう。

(山本 実：杏林大学医学部教授)

やまもと みのる 1949 年生まれ。1973 年慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学医学部内科学教室入局、75 年同教室老人内科所属。1990 年杏林大学医学部高齢医学講師、2001 年同准教授、03 年総合医療学教授、付属病院人間ドック長。

2011 年度 大学行事・イベント (平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月)	
9 月 15 日 (木) 卒業式 (春学期)	12 月 27 日 (火)～1 月 3 日 (火) 冬季休暇
9 月 17 日 (土) 入学式 (秋学期)	1 月 5 日 (木) 授業再開
9 月 20 日 (火) 授業開始	1 月 23 日 (月) 授業終了
10 月 8 日 (土)、9 日 (日) 杏園祭 (八王子キャンパス)	3 月 16 日 (金) 卒業式
8 日 (土) 杏祭 (三鷹キャンパス)	*医学部の授業再開・終了、冬季休暇はこれとは異なります
11 月 11 日 (金) 創立記念日 (休講)	

編集を終えて

- 本年 3 月の東日本大震災から 5 ヶ月余り、初めてのお盆を迎えました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、あらためて、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。この災害をどう伝えるか、途方に暮れました。そんな中で杏林ともご縁のある Donald・キーン博士の玉稿を頂戴したことは、大変ありがたいことであり、一同心よりの感謝を申し上げます。私たちはキーン先生からいただいたお言葉をしっかりと心に留め、前を向いて、かけがえのない一瞬一瞬を大切にしていきたいと思います。キーン博士への仲介の労をとって下さったピーター・マックミラン客員教授、猛暑と雷雨の中で紙面をご指導下さった木下修編集顧問、ご協力をいただいた皆さまに御礼を申し上げます。(有)
- 津波で家族や家を失ったり原発事故で故郷を離れたりして茫然とする被災者の様子が脳裡から離れません。過酷な状況の中で人々が助け合いながら立ちあがる姿や安全の歯止めなき先端科学技術の実態を見るにつけ、仲間との絆の大切さ、豊かさに関わり切っていたこと、自然との共生といったことを深く考えさせられます。(ふ)

杏林大学新聞編集委員会 編集長 黒田有子
事務局 広報・企画調査室
TEL 0422 (44) 0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL http://www.kyorin-u.ac.jp/